

はじめに

本フォント及びドキュメントファイルは Windows と Linux 上での動作を目的に作成されています。他の環境でのご利用は保障できません。またご利用になった場合、不具合で不利益が発生したとしても、いかなる保障もいたしませんのでご注意ください。修正可能な不具合につきましては、連絡していただければ善処する所存です。個人環境で、十分なテストが行われているとは言えませんので不具合が発生する可能性があります。期待した表示が行われない場合はご了承ください。

拡張版悉曇フォントについて

TrueTypeFont ApDevaSiddhamEx.ttf は、unicode のデーヴァナーガリー領域(U+0900-097F)に悉曇文字を配置し、デーヴァナーガリー入力と同じ方法で悉曇によるサンスクリット入力を可能にしたフォントです。これは、もう一つの悉曇フォント ApDevaSiddham.ttf の拡張版になります。拡張したのはフォントの「EMの大きさ」で 1024 から 2048 に倍増しました。知っている人には判る事でしょうが、それは「内部的な解像度が違うだけで何も変わらないはず」なのです。もちろんフォントの設定数値を変えても、ソフトが自動的に見た目が変わらないように全グリフを再設定してくれます(大きなお世話だ)。従って泣く泣く、EMの大きさ 2048 の新フォントを作り全グリフをコピーし、さらに GSUB 設定(合字や置換の全ての条件)を悉く入力し直した拡張版です。おかげで悉曇十六章順という呆れたグリフの並びも見事コード順に整理されました。また異字体変換に新手法を考案し、必要グリフ数の節約にも貢献しています。

気が付いている方もいらっしゃると思いますが、拡張版の特徴は通常版より字が小さい、それも 1/2 である事です。もう絶望的に小さいです。通常はポイントサイズを普段の倍にしてお使いください。実は、通常版はフォントの想定サイズを大幅にはみ出しています。空点なんてグリフの上限の上に出ていますし、重字の下部は下限から飛び出しているものが多数です。これは文字欠けが起こっても文句も言えない状況でした。この拡張版では三字重字程度なら枠内に抑え込めるようになっております。大きな重字も安心設計でお使いいただけます。

動作環境

unicode フォントですので Windows2000 以降の対応になります。

Linux では問題なく使用可能だと思われませんが、Windows で使用される場合 Windows10 以外ですと一部の重字が正しく合字されないことが有ります。

使用可能な文字

摩多十二字・別摩多四字・体文三十三字・二字重字千八十九字・三字重字八百七十七字

三字重字は大正新脩大藏經 悉曇部 悉曇集記を参考に通常版より 672 字追加されています。(基本的に通常版と同じ文字が使えますが、一部省かれていたり、異字体変化が拡張されていたりします。)

Ver.1.10 より二字重字を 1089 字に増量しました。これにて全ての二字重字が使用可能です。

フォントの組み込み方

フォント管理ソフトで組み込むなり、Windows の Fonts フォルダにドロップするなりご自由にどうぞ。この辺りマイクロソフトもやる気が無いのか、未だ同名ファイルを事前に消さないと組み込めない仕様らしいのですが。一般的にファイル管理ソフトで右クリックしてプレビューソフトを立ち上げ、そこからインストールがパターンでしょうか。

悉曇文字の入力方法

通常は、デーヴァナーガリー入力可能な環境では無いと思われしますので、環境設定が必要です。もちろん、既に環境が整っていらっしゃる方々がいらっしゃるのは当然です。インド関係の方や、そちらの専門家、及びヒンディ系の学生さん、熱心な仏教・密教関連の方々は読み飛ばしてください。残った人は検索へ。まず、IME がサンスクリット語・ヒンディー語に対応していないと入力できません。ちなみに、サンスクリットもヒンディーも「語」を付けるのは妥当ではありません。マイクロソフトに文句言ってください(日本語仕様)。どちらも最初から言語ナンデスヨ。

MS-IME なら言語と地域の設定で対応可能です。GoogleIME はヒンディ版あったような。ATOK はさすがに知りません。ちなみにインドのキーボードは、日本語キーボードの仮名表示みたいに、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されているようです。で、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されていない日本や英語圏のキーボードをご利用の皆様は、ユーザー補助のスクリーン

キーボードを使用されますと入力が楽になります。インド系キーボードの表示を覚えていて、タッチタイプな方には必要ありません。ちなみにスクリーンキーボードは、表示フォントを変更可能ですので、驚愕の悉曇キーボードと化すことが可能です。変更しないとデーヴァナーガリー表示なので覚えるまで大変ですが。悉曇キーボードに慣れるまで使用する人がいるのか、それが問題です。ちなみに私はもう覚えました。デーヴァナーガリーが読めて、キー入力できるのに意味はさっぱり解からないのですが。

Linux では iBus や Fcitx などの IM でインドキーボードを指定すれば大抵入力できます。

通常版フォントについて

TrueTypeFont ApDevaSiddham.ttf は、作者のHPにて配布しております。文字サイズが倍あるため拡張版ほど見た目が小さくはないのですが、重字等がはみ出し文字欠けを起こすことがあります。また、三字以上の重字は 80 文字程度しか登録されておられません。初めてのデーヴァナーガリーフォント作成であったため、グリフの配置が行き当たりばったりで、試行錯誤を繰り返したため GSUB データが大変な事になっていたりします。興味のある方は、本文最後の配布元までどうぞ。

最後に

ApDevaSiddhamEx(フォント名はファイル名と同じ)は、FontFoge を BodhiLinux で使用し作成されました。その作者と協力者及び、Windows での「unofficial fontforge-cygwin」の作者さんに感謝します。

このフォントファイルには、特殊なグリフは含まれておりませんのでフリーフォントとして扱っていただけます。

参考文献及び HP

朱鷺書房刊・児玉義隆氏著「梵字必携」

岩波書店刊・中村元氏紀野一義氏訳註「般若心経 金剛般若経」

「まんどろーかのサンスクリット・ページ」

「貝葉に見る般若心経の秘密」

「ぷらっとさんぽ」平成の『般若心経』-摩訶般若波羅密多心経

「e 国宝」梵本心経および尊勝陀羅尼

「大正新脩大藏経テキストデータベース」

「CBETA 中華電子佛典協會」

「Seven Mile Beach File」メモ 361

「ta meta ta phonetika」

その他 Devanagari Font 公開 HP、仏教・密教系 HP

以上

配布元 「電腦亜空間」<http://www008.upp.so-net.ne.jp/ajari/>

T.Nakagawa